

## 第4部 くだものの部

### (1) ぶどう(ナガノパープル) 《 審査日:令和6年9月12日 》

#### ①審査所見

57回目を迎えた本コンクールは、種なしで皮ごと食べられる大粒品種の生産振興を推進するため、「ナガノパープル」を対象に行いました。

今年のコンクールの出品点数は106点で、例年並みの出品数となりました。今年は、開花期頃は天候も安定し、生育も順調に進みました。梅雨入りは6月21日と平年より2週間遅く、その後晴れ間があり、高温が続きましたが、7月中旬以降は降雨が続き、梅雨明けは平年並みとなりました。梅雨明けから8月にかけて記録的な高温となりましたが、台風の影響により、局地的に激しい雨が降り、各地で裂果が発生しました。このような気象条件においても例年並みの出品点数があったことは、生産者及び関係機関のたゆまぬ努力による「ナガノパープル」の生産技術向上の現れと存じます。

出品されました「ナガノパープル」の果房の多くは、ややゆるめの握り房を意識し、30粒程度に摘粒されていましたが、一部に、果粒の大きさにばらつきがある果房が見られました。第二次審査に進んだ20点の平均糖度は21.6%と目標糖度に達し、平均1粒重は17.7gと肥大、食味は良好でした。しかし、1粒重には14g～25gと幅があり、果粒肥大が良好な果房は果粒数を減らして目標果房重に調整している努力も見られ、房づくりに苦労されている様子が伺われました。着色はおおむね良好でした。外観については軽微なさびがあるもの、ブルームが薄いもの、葉液斑が認められたものもあり、出品物による差が大きかったように感じられました。心配された裂果は一部で見られたのみでした。

上位入賞されたものは、房型、着色、果粒肥大、食味などが総合的に優れており、模範となるぶどうに仕上がっていました。これも生産者及び関係者の努力の賜物と拝察いたします。

ぶどう産業は品種構成が大きく変わる時期にあり、産地間競争の激化も見られています。本県ぶどうの品質向上が図られ、消費者からますます信頼されるぶどうが生産できますよう関係各位のご協力を賜りますことを願いますとともに、各産地が更に発展されますことをご祈念申し上げ、審査所見といたします。

#### ②入賞者名簿

##### ナガノパープル

区 分	氏 名	市 町 村
農林水産大臣賞	竹前 昭子	須坂市
農産局長賞	渋谷 光太郎	須坂市
長野県知事賞	伊藤 秀樹	長野市
長野県園芸作物生産振興協議会長賞	山崎 克俊	千曲市
長野県園芸特産振興展推進協議会長賞	竹前 陽平	須坂市
全国農業協同組合連合会長長野県本部長賞	秋元 啓	高森町
一般財団法人長野県果樹研究会会長賞	奥出 俊一	山ノ内町
	高橋 恵太	上田市